

社名捨て、反骨心で大統合



「僕が『NKKの社名は消す。お前さんはどうだ?』と聞く。『もちろん消す』と言ってくれた。だから川崎製鉄と統合を決めたんだ」

下垣内 洋一さん

(元JFEホールディングス社長)

「僕は誕生しなかった。極秘会談は1999年暮れのことである。鉄路で経営は苦しかった。『伝統が大事だ、という人もいるが、割り切らないと、何もできない』

農業用ダム、衰えぬ探究心



沢田 敏男さん

(元京都大学長)

「学会のシンポジウムには毎年出席し続けており、農業土木工学への関心は98歳になっても衰えなかった。弟子の長谷川高士京都大名誉教授は驚くように振り返る。

東日本大震災の発生から間もなく7年が経過する。記憶を後世に伝え、防災に役立てるには何をなすべきか。震災の記録を収集して公開する「アーカイブ」の役割は大きい。個人が撮影した写真から行政のウェブサイト履歴まで、膨大な情報の保存と活用に取り組み人々を追った。

作権など複雑な権利の処理をやり直し、資料を後世に引き継ぐ役割を果たす考えた。国会図書館を中心とする震災アーカイブの青写真を描いたのは政府の復興構想会議だ。議長代理を務めた御厨貴・東大名誉教授(66)は「確かに立派なものができあがった」とひなびきを評価しつつも「使い勝手がいいとはいえない」と注文をつける。膨大なデータを今後の防災に生かすには「記録がもっと国民に身近なものにならなければならぬ」と指摘する。

「学会のシンポジウムには毎年出席し続けており、農業土木工学への関心は98歳になっても衰えなかった。弟子の長谷川高士京都大名誉教授は驚くように振り返る。農業用ダムを研究し、多くのダム建設に関わった。発電や治水用のダムに比べて規模

震災、アーカイブがつなぐ

「この写真には原発事故後のある時期の記憶がバックされている」。福島大学の柳沼賢治・特任准教授(61)が解説する。写真には2011年3月の東京電力福島第1原子力発電所事故により避難した子どもたちが、荷物を持ち帰るため一時立ち入りしたときの風景がそのまま残る。

現在ではヤフーの天気・災害サイトの責任者を務める宮内氏は、16年7月に全国の河川の水位情報を確認できるコーナーを新設した。前年に起きた関東・東北豪雨による洪水がきっかけだ。水位情報をサイトで用いる許諾を得るため、国土交通省や各地の自治体を訪ね歩いた。

「冷戦時代を知らない若い世代を巻き込みたい」とフラットで開かれた組織づくりを目指した。現在は平和や軍縮、人権などに取り組む約470団体が参加する。ノーベル平和賞の受賞には「核兵器がもたらす悲惨さに人々の関心を向け、核兵器禁止条約採択に果たした役割が認められた」と喜び、豪州や唯一の被爆国である日本が、米国の「核の傘の下」にあるとして核兵器禁止条約に参加しなかったことに「非常に落胆した。市民社会からの強い働きかけが必要だ」と話す。「豪州にも英国が行った核実験のヒバクシャがいる。世代を超えた苦しみの遺産から教訓を学ぶべきだ」と強調する。

「この写真は原発事故後のある時期の記憶がバックされている」。福島大学の柳沼賢治・特任准教授(61)が解説する。写真には2011年3月の東京電力福島第1原子力発電所事故により避難した子どもたちが、荷物を持ち帰るため一時立ち入りしたときの風景がそのまま残る。

Table listing major disaster archives: Harvard Univ. Japan Disaster Archive, National Diet Library, Iwate Prefecture, Kumamoto Prefecture.



原発事故で避難した生徒が一時立ち入りした福島県楡葉町立楡葉北小学校(福島大学の柳沼氏らが撮影)

フォーカス

ティルマン・ラフさん ノーベル平和賞受賞のICAN創設

市民社会から核廃絶訴え



2017年のノーベル平和賞を受賞した国際NGO「核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)」の創設者の1人。公衆衛生が専門のオーストラリアの医師で、1985年にノーベル平和賞を受けた核戦争防止国際医師会議(IPPNW)のメンバーでもある。「人類に無差別に、世代を超えて影響を与える核兵器の廃絶を」と訴えてきた。